

10/17 金

REIF 特別企画

小さな水素産業各界の先駆者が集結

小規模分散型、地産地消モデルの水素システム

ミニステージ

展示会場

入口

入口



特別講演① 12:30-12:45

「小規模分散型、地産地消モデルの
小さな水素システムの可能性」

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
福島再生可能エネルギー研究センター長

難波哲哉 工学博士

パネルディスカッション # 1

グリーン水素を小さくつくる

難波哲哉 (FREA)、小林正典 (イノベ機構)、武藤友祐 (エノア)、李 顕一

パネルディスカッション # 2

グリーン水素を地域でつかう

渡邊友歩 (福島県)、藤田知宏 (浪江町)、武田邦義 (オールナビクオーツ)



特別講演② 13:55-14:05

「水素産業の採算性」

東京海上日動グリーンビジネス本部

木村竣一 工学博士

プレゼンテーション

「次世代水素キャリアの可能性」

OKUMA TECH 代表取締役

李 顕一



難波哲哉 工学博士 独立行政法人 産業技術総合研究所 再生可能エネルギー研究所センター長

1999年に静岡大学大学院理工学研究科を修了。

XXXX年、産総研の前身組織である国立資源環境技術総合研究所に入所。

2025年、独立行政法人 産業技術総合研究所の再生可能エネルギー研究所センター長に就任。

水素およびアンモニアを用いたエネルギーキャリア技術、再生可能エネルギーからのCO2フリーなアンモニア合成などに取り組んでおり、変動する再エネ出力下でも高効率・高安定で動作可能な触媒開発を進めている。



小林正典 福島イノベーション・コースト構想推進機構 産業集積部長

2001年NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)に入構後、これまでに約30か国でエネルギー・環境分野の技術開発・実証等の企画・プロモーションや国際連携(気候変動対策に係る二国間協力や国連・世銀の技術移転促進活動等)に従事。

担当プロジェクトの技術分野は、太陽電池、風力・小水力・地熱発電、バイオ燃料、自動車・家電リサイクル、CCUS、未利用熱利用、分散型エネルギー資源(DER)の活用、MaaS(Mobility as a Service)、水素・アンモニア製造・利用等。2024年4月から現職。福島浜通り等でチャレンジする事業者の技術開発・ビジネスマッチング支援等をイノベ6分野で推進中。

武藤友祐 株式会社エノア 再エネ水素システム事業部 営業部 部長

千葉県出身。大学で経営情報学を学ぶ。

卒業後、機械メーカーにて営業兼フィールドエンジニアを担当。

総合電機メーカー、食品、半導体、自動車、医療、ディスプレイ業界向けのFA装置営業に従事。2022年より、(株)エノアに参画。再エネ水素蓄電システムおよびEMSをお届けし、水素社会普及に推進中。



渡邊友歩 福島県商工労働部次世代産業課 副主査

福島県福島市出身。2014年福島県庁入庁後、企画調整部エネルギー課にて小規模太陽光発電や地熱発電に関する業務に従事。県教育委員会(県立いわき支援学校)への出向を経たのち、浪江町役場にて福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)や町内の水素関連実証の立ち上げに従事。2022年から県商工労働部次世代産業課にて県内各地の水素関連実証や水素の産業利用拡大に関する業務に邁進中。

藤田知宏 浪江町役場 産業振興課 新エネルギー推進係長

2005年4月に浪江町役場に入庁し、産業振興課に配属。2011年3月の東日本大震災は上下水道課で上水道事業を担当している最中に被災。震災後は浪江町内の最低限の生活環境を復旧すべく、避難指示解除前の町内にて先行して上下水道の復旧事業に従事。以降、防災集団移転事業、災害公営住宅、災害復興道路、道の駅なみえ等の復興整備事業を担当。

現在は新エネルギー推進係長として、浪江町内の再生可能エネルギー、水素事業の推進を担当し、浪江町内を水素の実証フィールドとしての利用促進を進め、水素が当たり前になる生活の中で使用される水素社会実現を目指している。



武田邦義 オールナビクオーツ株式会社 代表取締役

若い頃は、石英ガラスの製造現場で5年間技術を磨きました。その後22年に渡り、東京、福岡、大阪、広島など全国勤務で石英ガラスの法人営業を経験。2014年、長年お世話になってきた石英ガラス加工会社の経営を引き継ぎ、代表取締役に就任。郡山工場を中心に、世界中の半導体メーカーの治具部品製造をはじめ、さまざまな石英ガラス加工で水素エネルギーのお世話になっています。今年、10年目を迎える、業界38年のキャリアです。

木村竣一 工学博士 東京海上日動グリーンビジネス本部 MBA 第1級陸上無線技術士

1994年生まれ。工学研究、放送・メディア、損害保険、事業開発を横断するバックグラウンドを持つ。熔融塩電解によるCO2分解用セラミック電極の研究で2017年に熔融塩奨励賞を受賞。NHKでは放送インフラの保守・運用から番組制作技術まで幅広く担当。NHK会長特命プロジェクトにて全社経営改革プラン策定を主導。その後、番組編成・マーケティング部門で200万超ユーザーの視聴ビッグデータ解析に従事。現在は、東京海上日動火災保険株式会社にて、再生可能エネルギービジネスに関するリスク調査・リスクコンサルティングを担当。専門領域は系統用蓄電池および水素バリューチェーン。



李 顕一 OKUMA TECH株式会社 代表取締役社長

カリフォルニア州立工科大学でエンジニアリングを学ぶ。卒業後、童夢にて国産レーシングカーの設計およびレースエンジニアを担当。2011年より、豊田自動織機にてトヨタMIRAI向け水素循環システムを開発するコンプレッサ技術企画部に所属し部内を横断する立場で様々なコンプレッサの技術企画を担当。2017年より、楽天ドローン事業部にて技術企画を担当。2021年4月、OKUMA DRONEを設立。創業社長に就任。